



中国明清時代の経典解釈学史

[キーワード: 中国思想、儒教、経学]

准教授 新田 元規

<研究の概要>

中国の明清時代における思想文化について、儒教経典の解釈学史を中心として研究を進めている。

「四書五経」として総称される儒教の経典を研究する場合には、大別すると、経典が古代に撰述された時点での「元来の意味」を探究する観点(原義的観点)と、後代において経典がどのように読み継がれていたかを跡づける観点(解釈史的観点)とがある。本研究は、後者の観点から、おおよそ明代中後期～清代前期(16～17世紀)における思想・文化研究の一環として、当該時期の解釈学史を把握することを目指している。

儒教経典の解釈学史というと、今日の我々には随分と縁遠いものに感じられる。だが、「昭和」「平成」等の元号を一例にとり、現代日本において生命を保っている文化と関わるところがあり、日本の歴史・文化を理解するための一助ともなりうる。

<主要研究業績>

- ・新田元規, 2004年, 「唐宋より清初に至る禘祫解釈史」, 『中国哲学研究』No.20, 東京大学中国哲学研究会, 1-174頁, 2004年.
- ・新田元規, 2013年, 「万斯大『宗法論』より見る宋代宗法論の意義」, 『中国—社会と文化』No.28, 中国社会文化学会, 139-154頁
- ・新田元規, 2015年, 「許三礼の海昌講会と黄宗羲「海昌五経講義」」, 『日本中国学会報』No.67, 日本中国学会, 148-163頁

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- ・地方史に関係する漢文文献(編纂史料、碑文等)の解読

専門分野 : 中国思想史(明清期の経学研究)

E-mail: arata.motonori@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7161

Fax : 088-656-7161

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/272705/profile-ja.html>